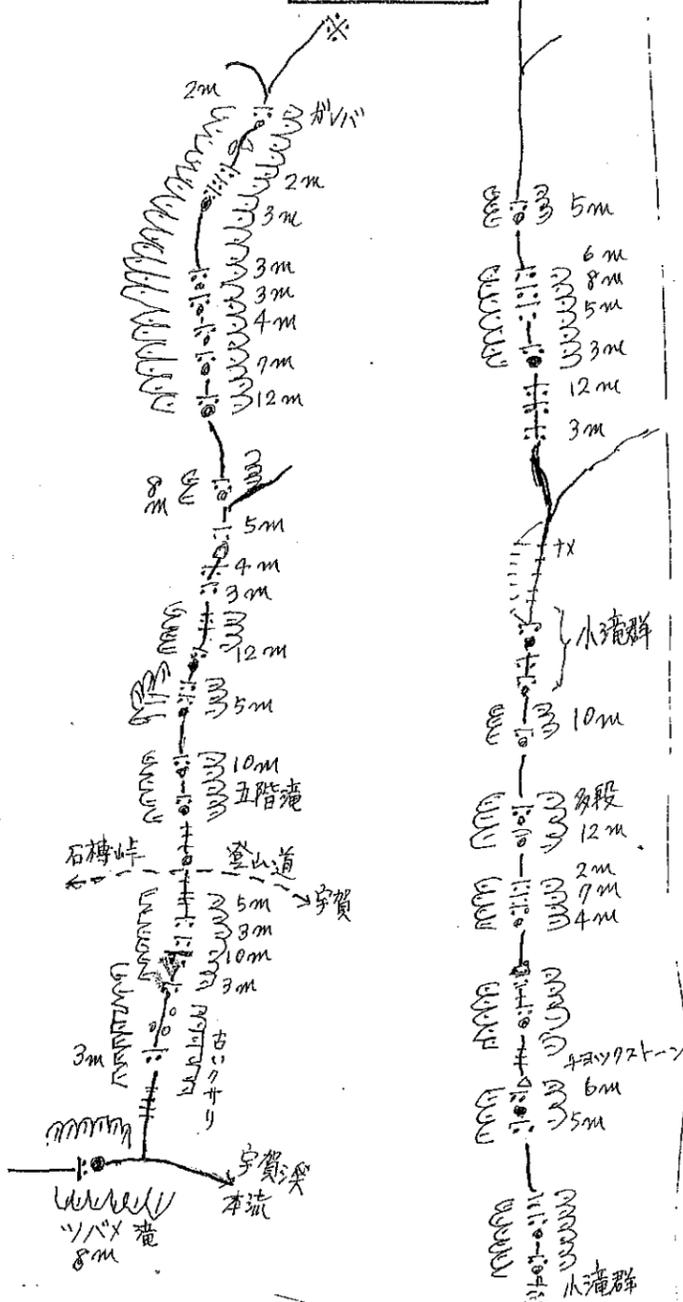
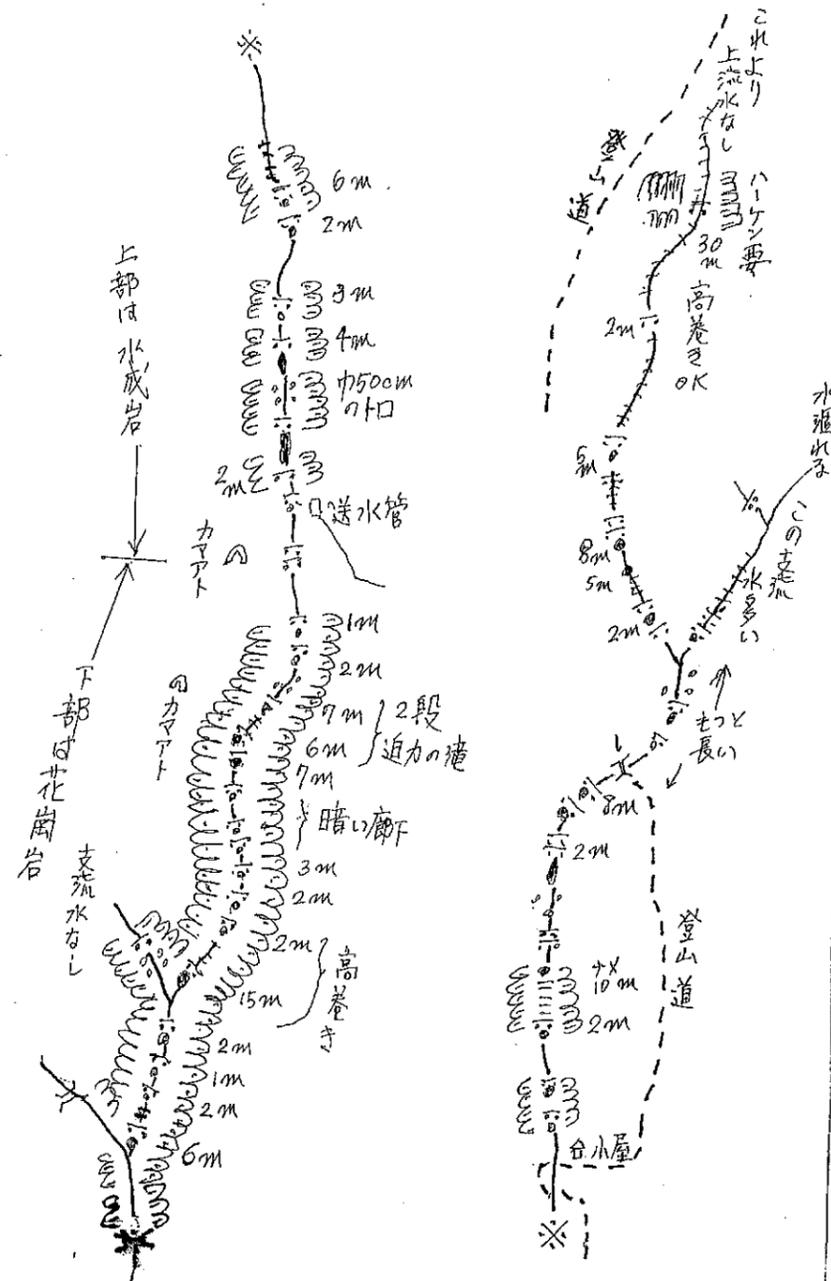


蛇谷



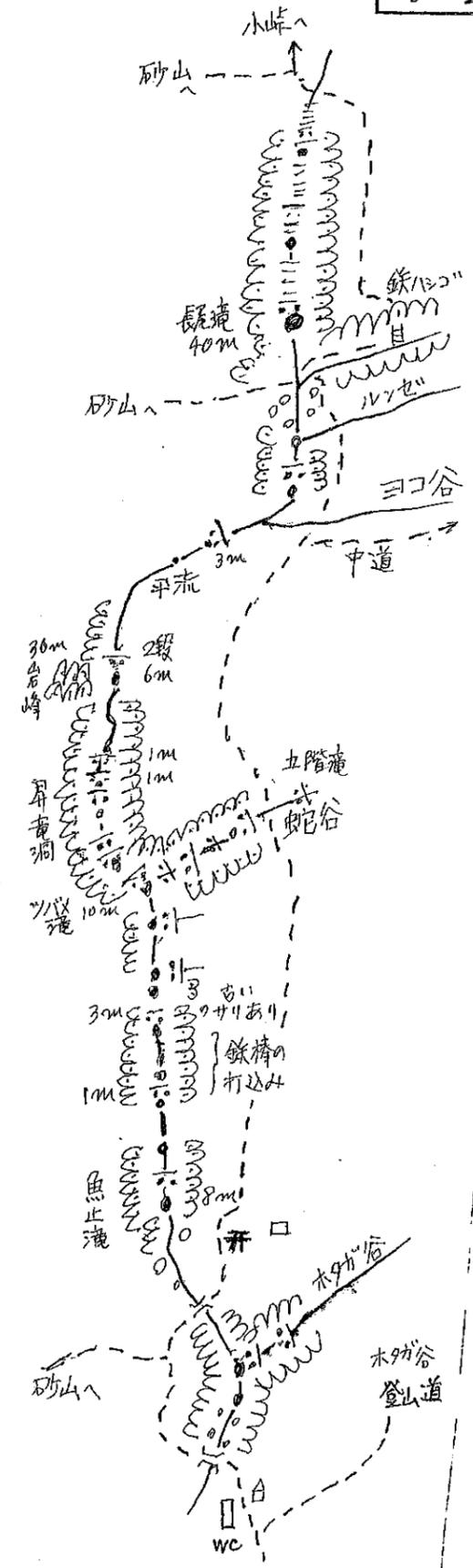
蛇谷
 登山道から見える五階滝から入谷する人が多い。すぐ廊下で滝が続く、10m滝は左を巻く2段5m滝のつぎは12mがあるが左を巻く、チョックストーンは右から越える。8m滝の奥はまた廊下で、釜のある12m滝は慎重な登攀となる。右からはホールドない。ザイルと三つ道具が必携だ。7m滝を左から越えるがオーバーハングでこれも緊張を強いられる。小滝連続では左、また廊下で河原にでる。ガレのつぎはチョックストーンがある。4mは左で廊下は終わり3段滝を越える。この先も廊下と小滝、ナメのつぎは10m滝を右から、あと小滝でつぎつぎにまだ滝が出てきてウンザリ。最後4m滝で毎の海にでる。登りに相当な登攀技術と体力がいる。登り5-6時間

ホタカ谷



ホタカ谷
 出合からすぐ釜ある6mの斜滝を右岸をへつる。廊下では小滝連続で容易に登る。左ルンゼ右曲がり点に15m滝と淵を左から登るのが困難。ハーケン打つ必要あり、上も廊下の連続で小滝多い。容易に登れる。廊下の岩壁が高くなると7m滝、つぎに2段15m滝。両側はものすごく高い壁。右岸の壁にルートをとる。上に炭焼き窯跡と小広場あり、廊下は小滝2つで一応終わる。右岸の送水管を見てつぎの廊下は幅50cmほどの狭い。トコは細長く3m滝があるが全部登れる。両岸の岩が終植林の中となり登山道が出てくる。また廊下があり8m滝を越える。谷は2分して右の支流が水量多い。左の本谷は広くて2mから8mの滝が数個連続で直登する。最後は崩壊の石ごろご地帯、分かれ滝30mは左の草付き、上はスラブとなりあとは登山道に出会う。登攀技術と体力に自信ある人むきのコース。登り6時間必要。

宇賀溪本谷



宇賀溪本谷
 登山道が左岸にあるので一般登山者はこれを歩くが、夏に谷を遡行すると涼しい。魚止滝、ツバメ滝、長尾滝は実に堂々として見応えある。ほかにも数mの小滝が無数にあり、実に楽しい沢歩きとなる。
 魚止滝は大きな淵があるが、これを右から巻いて滝上にする。そこはスラブとなって釜が続く。左岸の岩壁に昔の栈道残骸のボルトがある。3m滝の右岸の古いクサリは信用できない。慎重な登攀をするが、水量多いときは危険なのでザイル、ハーケン使用となる。平流をしばらくいくと左岸から2本の枝谷があり、これを過ぎると廊下となる。大岩が重なる滝が連続し蛇谷の出合いにつく。このあたり岩、岩、岩で飛び移るが水量多いとき慎重さを要求される。ツバメ滝10mは轟音を響かせ落下、これは巻き道が蛇谷側の古いクサリを経て左岸に渡るが、これも腐食している。このツバメ滝の高巻きが本谷最大の困難なところ、高巻きを滝頭に下るところは岩が外傾しており、濡れていると滑る危険もある。また幅1mほどの滝源頭を左岸に渡るところでは、流れが早いうへ膝を越す水量で慎重な行動がいる。滝上からは廊下で右岸と左岸と移ったりヘツルが昇竜洞と呼ばれている。右岸の岩壁は30m塔も天空にそびえている。さらに花崗岩の飛び越えていく。横谷出合いを過ぎると登山道があり、長尾滝40mが見えてくる。この滝の上にも小滝があるが、あまり遡行する人はなく、砂山へ廻って下りる人が多い。
 駐車Pから一周すると5、6時間